

令和4年 「第132回沖縄県医師会医学学会総会」



広報委員 照屋 勉



第132回沖縄県医師会医学学会総会日程

会期：令和4年6月12日（日）
会場：沖縄県医師会館（ハイブリッド形式）
第132回沖縄県医師会医学学会総会開会宣言
第132回沖縄県医師会医学学会総会会頭挨拶 大城 吉則

特別講演

「コロナ禍における倫理を考える」

座長：沖縄プライマリ・ケア研究会 会長 稲福 徹也
講師：琉球大学病院 地域・国際医療部 金城 隆展

ミニレクチャー

①座長：中頭病院 新里 博
講師：中部徳洲会病院 泌尿器科 呉屋 真人
演題：「泌尿器科領域におけるロボット支援手術の現状」

②座長：新川クリニック 宮城 政剛
講師：国立国際医療研究センター病院
国際感染症センター 国際感染症対策室
医長 森岡 慎一郎
演題：「新型コロナウイルス感染症の後遺症」

沖縄県医師会医学学会賞（研修医部門）Ⅰ
沖縄県医師会医学学会賞（研修医部門）Ⅱ
一般講演（ZOOM開催）
沖縄県医師会医学学会賞（研修医部門）選考委員会
沖縄県医師会医学学会賞（研修医部門）結果発表
分科会長会議

令和4年6月12日（日）AM9：00より、第132回沖縄県医師会医学学会総会が沖縄県医師会館（ZoomによるLive配信併用）にて開催されました。開会宣言（by 沖縄県医師会医学会長：砂川博司先生）、会頭挨拶（by 第132回沖縄県医師会医学学会会頭：大城吉則先生）に引き続き、【特別講演】：「コロナ禍における『倫理』を考える！」というタイトルで金城隆展先生（琉球大学病院／地域・国際医療部／臨床倫理士／倫理コンサルタント）にご講演頂きました。座長は稲福徹也先生（沖縄プライマリ・ケア研究会会長）をお願いいたしました。小生的に気になったポイント・キーワードを列挙羅列してみます。①「医療の本質は『手当て』～コロナによって『手当て』が忌避される事態に！」、②「Ethics is all about choices！（『倫理』は詰まるところ『選択』である！）」、③「人生とは『選択』の連続！」、④「悩まないために『倫理』を学ぶ！」、⑤「『倫理』の反対語は『思考停止』…！」、⑥「日本の医療者は『キーパーソン病』?!」、⑦「ACP（Advance Care Planning）が私たちに求める三つの覚悟～（1）患者中心！（2）とことん話し合う！（3）

共同意思決定!」、⑧「中庸としての『医療』という徳!」、⑨「『不在の实在!』～コロナ禍以前には感じる事ができなかった患者の不在を実感!」、⑩「『無知の知!』～物語を介して患者さんに教えてもらおう!」…。時間が限られていたので多少足早な感がありましたが、百戦錬磨の金城隆展先生の素晴らしいご講演を今回も拝聴することができました。本当にありがとうございました。

【ミニレクチャー】①「泌尿器科領域における『ロボット支援手術』の現状 by 中部徳洲会病院：呉屋真人先生（座長：中頭病院：新里博先生）」～『ロボット支援手術』の現状、今後の展望・課題についてご講演頂きました。前立腺全摘除術 503 例、腎部分切除術 87 例、膀胱全摘除術 18 例…。症例数の多さに驚かされました。『プロクター認定制度』など後進の指導にもご尽力されているというお話でした。②「新型コロナウイルス感染症の後遺症 by 国際感染症センター：森岡慎一郎先生（座長：新川クリニック：宮城政剛先生）」～「コロナ後遺症の【定義】!」、【「症状・疫学報告」～倦怠感・筋力低下、睡眠障害、脱毛、味覚障害 etc】、【「コロナワクチン」～発症予防・重症化予防・後遺症予防!】、【「現状と今後の課題」～慢性疲労症候群・複合的症状・手探りの対症療法!～知見集積で有効な治療法が見つかるはず…!】という Zoom による Live

配信でしたが、とても素晴らしいご講演でした。講師・座長の先生方、お疲れ様でした。

昼の休憩をはさみ、医学会賞：研修医部門の口演、Zoom 開催による一般講演、そして医学会賞選考委員会～結果発表となりました。

選考結果は、沖縄県医師会医学会賞（研修医部門）Ⅰ～【最優秀賞】山口華乃子先生（県立南部医療センター・こども医療センター）・【優秀賞】新崎里奈先生（中頭病院）、沖縄県医師会医学会賞（研修医部門）Ⅱ～【最優秀賞】白潟爽香先生（県立南部医療センター・こども医療センター）・【優秀賞】松島宏和先生（県立中部病院）…。受賞された先生方には、さらなる“切磋琢磨”をお願いしたいと思います。本当におめでとうございます。

さてさて、「コロナ禍」の中、「対面開催」+「オンライン開催」=「ハイブリッド開催」が主流となっております。しかしながら、歴史ある本医学会は、若い先生方の「登竜門」的役割を担っております。「コロナ禍」が落ち着きましたら、各分科会を挙げて、また各医療機関の交流・意見交換の場として、是非とも積極的なご参加をお願いしたいと考えております。今後とも、ゆたしくゆたしくお願い申し上げます。【参考】①「5+6+7=18（コロナは嫌!）」、②「コロナが落ち着いたら、君に逢いに行くよ！（コ+ロ+ナ=君!）」…。合掌…!。

医学会頭挨拶（抄録）

第 132 回沖縄県医師会医学会総会会頭
大城 吉則



第 132 回沖縄県医師会医学会総会の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。この度は、伝統ある沖縄県医師会医学会の会頭にご指名いただき、安里哲好医師会会長、砂川博司医学会会長ならびに中田安彦中部地区医師会会長、そして会員各位に心から感謝申し上げます。

私は 1988 年に琉球大学医学部第二期生として卒業し、琉球大学医学部泌尿器科（大澤炯教授）に入局。その後、大学と県内外の関連病院で修練を重ね、腎移植および泌尿器科腹腔鏡下手術を主な専門領域として診療を行なってきました。2015 年に大学を退職し、その当時、県

内で唯一の手術支援ロボット da Vinci を有する中部徳洲会病院に移り、手術の新たな領域であるロボット手術に魅了されながら、還暦を迎える現在でも第一線で手術を行っています。

沖縄県医学会は、以前から県内若手医師の学会発表の登竜門的な立ち位置でした。私の学会デビューも医師2年目の沖縄県医学会で、顔なじみの県内の先生方の前で緊張しながらも、何とか滞りなく発表できたことが思い出されます。近年の県医学会では研修医部門も創設され、若手医師の他流試合、自らの研修習熟レベルの再確認、そして他施設の研修医との交流を広げる絶好の機会になっています。これから、大きく羽ばたこうとする研修医の先生方に、温かいエールを送って下さい。また、上級医の先生方におかれましても、自らの診療の実績・成果、貴重な症例報告を行い、新たな知見について意見および情報を交換する学びの場にもなっており、県内の診療レベルの向上にも大きな貢献を果たしてきたと考えます。

2019年12月に中国で端を発した新型コロナウイルス感染症は瞬く間に全世界に感染拡大し、特に沖縄県は観光客や米国軍基地関係者等の県外からの往来者が多く、他県に比べて感染拡大の規模が大きくなってきました。これまでに感染拡大6波を経験し、県内の多くの医療機関でも大変なご苦労が続いておりますが、その度に、医師会会員の多くの皆様が対応されてきたおかげで、感染拡大時に他県で認められた感染者の診療遅延や救急医療の混乱等は最小限に防げております。ひとえに県内の医療関係者が一丸となって、この困難に立ち向かう協力体制が構築出来ているおかげとも考えております。コロナ禍においては、本学会も他の学術集会と同様に従来の対面方式から対面とwebを併用したハイブリッド方式の開催へと変わってきました。当初は戸惑いもありましたが、現在ではそれにも慣れてきた感もあります。職場や自宅から手軽に参加できること、また、webでは発表者のスライドが目の前のコンピュータの画面に映し出されることで発表内容の視聴性も良くなってきております。本大会では、一般演題92題、研

修医部門16題に加え、特別講演1題そしてミニレクチャー2題を用意しております。

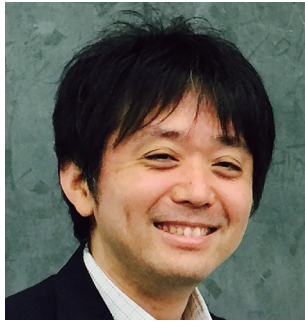
特別講演としては琉球大学地域・国際医療部の金城隆展先生の『コロナ禍における倫理を考える』を予定しております。今回の新型コロナ感染拡大においては、近年では経験したことがない感染者数の増加に対する医療資源不足による医療資源の配分、高齢者施設での感染者の施設内隔離、感染者やその家族そして感染対応した医療従者に対する差別など、これまで見られなかった様々な医療倫理上の課題が浮き彫りになりました。コロナ禍の新たな医療倫理の課題についての概要とその解決の糸口を解説して頂けるものと考えます。

ミニレクチャーでは、中部徳洲会病院泌尿器科の呉屋真人先生による『泌尿器科領域におけるロボット支援手術の現状』です。コンピュータ制御され繊細で正確な手術操作が可能となったda Vinciによるロボット支援手術は、外科領域において大きな革命を起こしました。本邦では泌尿器科領域での導入がいち早く進み、前立腺、腎臓そして膀胱に対して多くのロボット手術が行われています。これから導入を考えられている外科領域の先生方だけではなく、手術とは疎遠となっている開業医および内科の先生方にも最新の手術事情として興味深い内容になっているものと考えます。2つ目のミニレクチャーは国立国際医療研究センター病院の森岡慎一郎先生による『新型コロナウイルス感染症の後遺症』の講演が予定されております。新型コロナウイルス感染症の回復後も倦怠感、味覚・嗅覚障害、うつなどの様々な後遺症が報告されており、感染収束後も長期間にわたって、臨床の現場では問題となる領域です。いまだ、十分に解明されていないコロナ感染症関連の領域に光を当てたご講演は、会員の皆様にとって有意義な知見を与えて頂けるものと確信しております。

コロナ禍が続いておりますが、明けぬ夜はありません。新型コロナウイルス感染症の早期の終息を祈念し、本学会がコロナ後の新たな明るい医療の展開を少しでも思い描くことが出来るような学術集会になることを願っております。

特別講演（抄録）

コロナ禍における倫理を考える



琉球大学病院 地域・国際医療部 特命助教
臨床倫理士（倫理コンサルタント）
琉球大学 医学部 講師（併任）
名城大学 看護学科 非常勤講師
金城 隆展

沖縄県は2021年の夏、国内最大規模の新型コロナウイルス感染症流行（パンデミック）を経験しました。面会制限により人々は分断され、行動制限により人々の自由は制限され、人々の心に潜む差別が顕在化し、医療資源は枯渇し、多くの人々が命を落としました。新型コロナウイルスは私たち（社会）の脆弱な部分を巧みに突いてきました。高齢者や基礎疾患を有する人々が狙われ、医療の脆弱さが顕になり、様々な倫理的ジレンマや課題が浮き彫りになったのです。

私たちはこれらの倫理的ジレンマや課題にどのように向き合い、そこから何を学び、これか

らどう生きていけばよいのでしょうか？

本講演では今回の新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う倫理的ジレンマや課題を概観した上で、これらの多くはコロナ禍で新しく生じた訳ではなく、むしろ以前からあったものがコロナ禍で顕在化したにすぎない可能性を提示し、コロナ禍における倫理とは詰まるどころ、コロナがあろうとなかろうと、私たちが患者そして自分自身にどう向き合い続けるべきかという私たちの「態度」に他ならないということを皆さんと考える時間にしたいと思います。

PROFILE

（学歴）

平成12年 米国ロマリダ大学大学院 生命医療・臨床倫理、修士号

平成20年 大阪府立大学大学院 博士号
博士論文「ナラティブエシックスと共同著作：その理論と実践に関する哲学的考察」
主査：森岡正博

（職歴）

ロマリダ大学 クリスチャンバイオエシックスセンター
運営管理人

大阪府立大学 人間社会学部 客員研究員

東京大学大学院 医学系研究科 特任研究員

琉球大学 医学部 非常勤講師

群馬大学 非常勤講師

琉球大学医学部附属病院 一般職員を経て現職



特別講演

ミニレクチャー (抄録)

(1) 「泌尿器科領域におけるロボット支援手術の現状」

「中部徳洲会病院におけるロボット支援手術での取り組み

—制癌性の向上と機能温存を目指して—



中部徳洲会病院 泌尿器科
呉屋 真人

手術支援ロボットの開発は、軍事技術の医学への転用で研究が始まり、2000年に米国FDAの承認をうけ実臨床への投入が可能になりました。承認後すぐに前立腺がんに対するロボット支援手術（RARP）が開始され、欧米を中心に急速に普及しました。本邦では、2009年にダビンチ・サージカルシステムが薬事承認をうけ、2012年にRARPが保険承認されると、導入施設数と症例数が急激に増加しました。現在では、国内のダビンチは400台を超え、アメリカに次いで、世界第2位のロボット保有国です。その後泌尿器科領域では、2016年に腎部分切除術、2018年に膀胱全摘除術、2020年に腎盂形成術と骨盤臓器脱手術が相次いで保険承認され、今後さらに適応拡大される予定です。ロボット支援手術の特徴は、低侵襲性という腹腔鏡手術の利点に加え、3次元化された拡大視野、自由度の高い鉗子の動き、そして手振れ防止機能により人の手以上に緻密な操作が可能なこと。このことは、縫合や細かい剥離操作という従来の腹腔鏡手術の弱点を補っています。中部徳洲会病院では、2014年からロボット支援手術を開始し、これまで前立腺全摘除術503例、腎部分

切除術87例、膀胱全摘除術18例の実績があります。今回は、制癌性の向上や機能温存を目指した我々の取り組みや治療成績に加え、泌尿器科領域のロボット支援手術の今後の展望や課題についても述べたいと思います。

(2) 「新型コロナウイルス感染症の後遺症」



国立国際医療研究センター 国際感染症センター
国際感染症対策室
森岡 慎一郎

はじめに

これまでにエボラウイルス病やデング熱といったウイルス性疾患でも後遺症があることが知られているが、新型コロナウイルス感染症（coronavirus disease 2019：COVID-19）にも罹患後症状（以下、コロナ後遺症）があることが分かってきた。

コロナ後遺症とは

2022年4月時点では、世界的に統一されたコロナ後遺症の定義はない。英国のNational Institute for Health and Care Excellenceは、症状の持続期間によって① Acute COVID-19：発症から4週間以内、② Ongoing symptomatic COVID-19：発症から4～12週間、③ Post-COVID-19 syndrome：発症から12週以降の3つに分類した。また、米国疾病予防センター（CDC）は、4週間以上続く症状をpost-COVID Conditionsと呼ぶことを提案した。一方で、2021年10月には世界保健機関からコロナ後遺症（post COVID-19 condition）の定義が発表された。ここでは、発症から3か月の間に2か月

以上続く症状があり、他の疾患で説明がつかないものと定義された。デルファイ法を用いて広く意見を集め、医療者だけではなく、新型コロナウイルス感染症患者や感染した医療者なども参加していた。上記のように、現段階では複数のコロナ後遺症の定義が存在するが、研究などの観点からも今後は統一していくことが望ましいだろう。

疫学報告

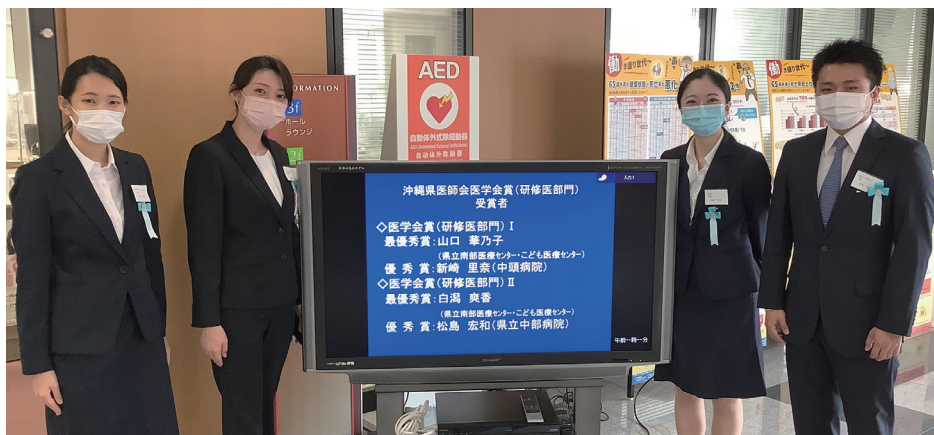
1,733名の退院患者を対象とした中国からのコホート研究では、発症から約6か月間経過しても76%の患者に何らかの後遺症を認めた。頻度の高い症状としては、倦怠感や筋力低下(63%)、睡眠障害(26%)、脱毛(22%)、嗅覚障害(11%)であった。また、このコホートの追跡調査では、発症から12か月後でも49%の患者に何らかの後遺症を認めた。また、男性と比較して女性の方が倦怠感や筋力低下(OR 1.43 1.04-1.96)、不安障害やうつ(OR 2.00 1.48-2.69)、呼吸機能検査での拡散能障害(OR 2.97 1.50-5.88)を認めやすいことが明らかになった。社会的な観点からは、もともと仕事をしていた479名のうち422名(88%)が12か月後にはもとの職に復職していた。復職できなかった57名のうち、18名(32%)は身体機能の低下のために復職できず、10名(18%)は解雇されていた。

コロナ後遺症の予防、コロナワクチン

コロナワクチンを2回接種していた人は、1度も接種していなかった人と比較し、COVID-19罹患後に症状が28日間以上遷延しにくい傾向があった。このことから、コロナワクチンは、発症予防や重症化予防だけではなく、コロナ後遺症予防にも寄与する可能性がある。また、小児においては、コロナワクチンが小児多系統炎症性症候群(MIS-C)の予防や重症化予防に寄与する可能性がある。

コロナ後遺症診療の現状と今後の課題

2021年12月に『新型コロナウイルス感染症診療の手引き 罹患後症状のマネジメント』が公開された。特徴としては、症状ごとにアプローチ方法がフローとして整理されており、どの症状においてもまずはかかりつけ医等が初療を行うこと、必要に応じて専門家に相談することが記載されている。現段階ではコロナ後遺症に対する確立した治療法はなく、対症療法が中心となる。同手引きに明確な治療方針は記されていないと、具体的にどのような治療を行うかが分からないといった開業医の先生方の声をしばしば耳にする。現場では手探りで対処療法が継続されており、そのような知見を集積してまとめることが、有効な治療法を見つける手掛かりになると考える。



左から、最優秀賞(研修医部門Ⅱ)白潟先生、最優秀賞(研修医部門Ⅰ)山口先生、優秀賞(研修医部門Ⅰ)新崎先生、優秀賞(研修医部門Ⅱ)松島先生

一般講演 演題・演者一覧

< 口演部門 >

沖繩県医師会医学会賞 (研修医部門)

- 1 詳細な病歴聴取により非特異的な主訴から診断に至った ANCA 関連血管炎の一例
沖繩県立中部病院 内科 安藤 泰樹
 - 2 心外膜炎を初発症状に発症した ANCA 関連血管炎の一例
友愛医療センター 初期研修医 山崎 修平
 - 3 急性骨髄性白血病に合併した白血病性心外膜炎、心筋炎が疑われた一例
南部徳洲会病院 救急診療科 神保 智之
 - 4 再発難治急性骨髄性白血病に対するベネトクラス / アザシジン療法を施行した高齢者の一例
沖繩中部徳洲会病院 初期研修医 糸洲 真希子
 - 5 血球貪食症候群 (HPS) を合併した ALK 陰性 Anaplastic large cell lymphoma の 1 例
沖繩協同病院 消化器内科 内間 耕
 - 6 腹腔鏡下虫垂切除術の術中に生じた低血圧と代謝性アシドーシスに、DM 性ケトアシドーシス (DKA) の関与が考えられた症例
中頭病院 麻酔科 新崎 里奈
 - 7 COVID-19 を契機に発症した甲状腺クリーゼの一例
沖繩県立南部医療センター・こども医療センター 臨床研修センター 山口 華乃子
 - 8 転倒で救急搬送され、クロイツフェルト・ヤコブ病の診断に至った一例
沖繩中部徳洲会病院 初期研修医 玉城 浩人
 - 9 経静脈的アプローチによる抜去が困難であった左肺動脈内に迷入した CV ポートカテーテルを外科的に切除した 1 例
琉球大学病院 第二外科 下地 ななほ
 - 10 胆石症・総胆管結石症に対し、腹腔鏡手術を施行した一例
那覇市立病院 初期研修医 平安座 啓
 - 11 成人男性に発症したメッケル憩室捻転の一例
友愛医療センター 初期研修医 嘉陽 宗亨
 - 12 VP シャントによる腹腔内髄液仮性嚢胞再発の 1 例
沖繩赤十字病院 伊志嶺 朝哉
 - 13 腹腔内出血をきたした小型胃 GIST 破裂の一例
ハートライフ病院 研修医 本坊 美喜子
 - 14 出生直後に腹部コンパートメント症候群を呈した腸回転異常を伴わない小腸捻転症の一例
沖繩県立中部病院 外科 松島 宏和
 - 15 初診から 1 ヶ月の経過で死亡に至った進行肺癌症例を通して学んだこと
琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター 平良 克哉
 - 16 総合感冒薬により中毒性表皮壊死症を来した 13 歳男児の一例
沖繩県立南部医療センター・こども医療センター 臨床研修センター 白濁 爽香
-
- 循環器 (外科)**
- 17 腹腔動脈分枝バイパスを追加し救命できた腹部臓器灌流障害を合併した急性 A 型大動脈解離の 1 例
浦添総合病院 心臓血管外科 盛島 裕次
 - 18 偽腔閉塞型 Stanford A 型急性大動脈解離に対麻痺を合併した 1 例
中部徳洲会病院 心臓血管外科 早川 真人
-
- 循環器 (内科)**
- 19 金属アレルギーを有する広範囲解離性胸部下行大動脈瘤に対する ALPS アプローチの 1 治験例
沖繩県立南部医療センター・こども医療センター 心臓血管外科 石上 高大
 - 20 オープンステント法を用いた全弓部置換術後に遅発性対麻痺を発症した一例
沖繩県立中部病院 研修医 狩野 安里
 - 21 当院での大動脈基部手術に対する大動脈弁温存 (Reimplantation 法) 連続 50 例の早・中期成績の検討
沖繩県立南部医療センター・こども医療センター 心臓血管外科 宗像 宏
 - 22 稀な部位に発生した心臓粘液腫の 2 例
中頭病院 心臓血管外科 山田 衛
 - 23 重症僧帽弁逸脱症に対する MICS 治療
友愛医療センター 心臓血管外科 山内 昭彦
 - 24 当科における MICS Maze の初期経験
友愛医療センター 心臓血管外科 檜山 耕平
 - 25 上行大動脈右腋窩動脈人工血管バイパス術 15 年後に人工血管起因性に発症した肺出血肺癆の手術例
琉球大学 胸部心臓血管外科 宮石 慧太
 - 26 冠動脈肺動脈瘻に多発性冠動脈瘤を合併した 1 手術例
中部徳洲会病院 初期研修医 松田 真
 - 27 完全内臓逆位に対して冠動脈バイパス術を施行した一例
沖繩県立中部病院 心臓血管外科 石橋 慧一
 - 28 自己心膜を用いたパッチ接着法により救命し得た左室自由壁破裂の一例
沖繩県立中部病院 心臓血管外科 栗林 宏次
 - 29 不妊精査中に偶発的に発見された先天性下大静脈欠損症の 1 例
中部徳洲会病院 初期研修医 北野 雅人
 - 30 体外循環を用いた下大静脈腫瘍浸潤例についての検討
琉球大学大学院 医学研究科 胸部心臓血管外科学講座 喜瀬 勇也
 - 31 高度の左上肢および顔面浮腫を呈した動静脈瘻を伴う腕頭静脈閉塞症の一例
沖繩県立中部病院 心臓血管外科 重本 智香
 - 32 両側大腿動脈吻合部巨大仮性瘤に対して血行再建時の出血制御・血流保持に工夫を要した一例
琉球大学病院 胸部心臓血管外科 伊波 絵里奈
 - 33 当院における下腿動脈を含む急性下肢動脈閉塞の治療
沖繩県立南部医療センター・こども医療センター 心臓血管外科 藤井 孝之
-
- 循環器 (内科)**
- 34 当院におけるサクビトリルバルサルタンの使用経験
中部徳洲会病院 循環器内科 都丸 翔
 - 35 冠動脈瘤を伴った冠動脈肺動脈瘻に対してコイル塞栓術を施行した一例
中部徳洲会病院 循環器内科 櫻井 佑
 - 36 劇症型心筋炎に対して循環補助療法を使用するも救命できなかった一例
沖繩赤十字病院 研修医 新城 翔大
 - 37 糖尿病網膜症と突然死の検討
ぐしけん眼科 具志堅 直樹
 - 38 低心機能患者の左室内血栓に対して DOAC を使用した一例
中部徳洲会病院 循環器内科 吉田 裕介

39 閉塞性動脈硬化症の治療において早期レトログレードアプローチが手術時間を短縮する可能性についての検討

中部徳洲会病院 循環器 小畑 慎也

40 当院で薬剤溶出性バルーンを用いてVAIVTを施行した25症例の検討

ハートライフ病院 仲村 義一

41 当院におけるImpella導入の初期成績

沖縄県南部医療センター・こども医療センター
臨床研修センター 城間 恵介

小児科

42 私の小児便秘診療ー便秘除去の重要性とポリエチレングリコールの有用性についてー

中部徳洲会病院 小児科 新里 勇二

43 腹痛と嘔吐を主訴に来院した低尿酸血症の1例

中部徳洲会病院 小児科 長田 博臣

44 当院における乳幼児好中球減少症の検討

中部徳洲会病院 飯塚 千紘

45 診断、治療介入に難渋したヒトパルボウイルスB19による小児の急性肝炎の1例

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
小児総合診療科 加藤 周

血液

46 下垂体機能低下症を契機に診断に到った稀少血液疾患の2例

琉球大学大学院 医学研究科

内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座 屋比久 賢光

47 利尿剤抵抗性の全身浮腫にて発症したキャッスルマン病の1例

中部徳洲会病院 内科 福田 恵里

48 診断時に骨髄浸潤を生じていた原発不明パーキットリンパ腫の1例

中部徳洲会病院 松岡 友樹

整形外科 I

49 沖縄県における大腿骨近位部骨折の現況

沖縄赤十字病院 整形外科 大湾 一郎

50 当院における変形性股関節症対するTHA後のBMIの推移

友愛医療センター 整形外科 永山 盛隆

51 距骨骨折術後偽関節に対して人工距骨置換術を施行した1例

友愛医療センター 西川 正修

52 CLAP療法で感染を制御し得た下腿開放骨折の1例

中頭病院 整形外科 石川 樹

53 上腕骨近位部骨折の術後に同側の肘頭骨折が判明した1例

大浜第一病院 整形外科 仲間 靖

整形外科 II

54 沖縄整形外科医会によるロコモ認知度およびロコモ度調査結果の検討

琉球大学病院 整形外科 仲宗根 哲

55 閉経後骨粗鬆症患者におけるロモソズマップによる治療の有効性と安全性の検討

琉球大学病院 神谷 武志

56 環軸椎亜脱臼

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
臨床研修センター 段谷 歩

57 不安定性頸胸椎転移性腫瘍に対し、沖縄県内で初めて後方除圧固定術後にサイバーナイフによる定位放射線治療を施行した1例

南部徳洲会病院 放射線科 兼次 駿輔

58 下肢麻痺を伴わずに膀胱直腸障害を発症した腰椎椎間板ヘルニアの1例

中部徳洲会病院 整形外科 安水 眞惟子

脳神経外科・神経内科

59 ベッドサイドでの頸部超音波検査が診断・病勢の評価に有用であった外傷性内頸動脈海綿静脈洞瘻の1例

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
脳神経外科 松田 留佳

60 当院の急性期脳梗塞への取り組み

沖縄県立中部病院 外科 福添 大地

61 誤嚥性肺炎治療中にイレウスとなり、剖検により脳動脈空気塞栓症を証明できた1例

沖縄県立宮古病院 総合診療科 中井 勝也

62 救急外来で経験した脳脊髄液減少症の1例

中部徳洲会病院 研修医 金城 渉

63 ある認知症を来す疾患では平均30歳で群間差が見いだせる

国立病院機構沖縄病院
脳・神経・筋疾患研究センター 諏訪園 秀吾

婦人科

64 腹膜炎を契機に発見された左卵巢境界悪性ブレンナー腫瘍の1例

友愛医療センター 産婦人科 池端 舞子

65 腹水貯留を伴った子宮体部漿液性癌の1例

友愛医療センター 産婦人科 前濱 俊之

66 卵巢甲状腺腫を伴った成熟奇形腫の1例

友愛医療センター 産婦人科 渡名喜 望海

67 タモキシフェン内服終了後に発症した子宮体癌の1例

友愛医療センター 大城 大介

産科

68 1日尿蛋白18gを契機に診断されたSLE合併妊娠の1例

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
臨床研修センター 又吉 純哉

69 当院における要支援妊婦の実態

沖縄県立中部病院 総合周産期母子医療センター
新生児内科 真喜屋 智子

呼吸器 (内科)

70 肺結核と悪性腫瘍を合併した症例の臨床的検討

国立病院機構沖縄病院 呼吸器内科 知花 賢治

71 膀胱内BCG免疫療法中に全身播種性BCG感染症に至った1例

中部徳洲会病院 研修医 伊藤 真之介

72 広域抗菌薬で改善しない肺炎の1例

沖縄赤十字病院 有馬 聖志朗

73 Stage IV肺腺癌に対する抗癌化学療法中に夏型過敏性肺炎に罹患した1例

中部徳洲会病院 研修医 上原 綾音

呼吸器 (外科)

74 転倒を契機に発症した特発性血気胸の1例

中頭病院 呼吸器外科 嘉数 修

75 発見から5年後に右上葉スリーブ切除を施行したtypical carcinoidの1例

中頭病院 呼吸器外科 小林 陽花

- 76 単孔式(4k,3D)手術を施行した成熟奇形腫の1例
中頭病院 呼吸器外科 大門 勇太
- 77 迷走神経由来の神経原性腫瘍に対しロボット支援下に核出術を施行した1例
中頭病院 呼吸器外科 大田 守雄
- 78 呼吸器外科側方開胸術後の肩関節痛の頻度とその要因
国立病院機構沖繩病院 外科 河崎 英範

消化器 (内科)

- 79 豊見城中央病院附属健康管理センターにおける上部消化管内視鏡検診精度管理の取り組みとプロセス指標
豊見城中央病院附属健康管理センター 田村 次朗
- 80 総胆管結石, 胆嚢内結石, 胆石痛発作合併妊娠の1例
沖繩赤十字病院 研修医 前原 大毅
- 81 当院におけるESDとESD教育の現状について
中部徳洲会病院 森本 龍馬
- 82 集学的治療が有効だった高齢者の十二指腸原発びまん性大細胞性リンパ腫の1例
中部徳洲会病院 消化器内科 山田 久修
- 83 筋萎縮性側索硬化症患者に生じた門脈ガスを伴う気腫性胃炎の1例
国立病院機構沖繩病院 消化器内科 樋口 大介

消化器 (外科)

- 84 オクトパスサインを呈したCAPDカテーテル大網・卵管采巻絡の1例
沖繩県立中部病院 森 祐太
- 85 アルコール性慢性膵炎による膵仮性嚢胞内出血に対し、動脈塞栓術後に開腹脾臓摘出+膵尾部切除術を行った1例
沖繩赤十字病院 初期研修医 島袋 清乃
- 86 小腸穿孔を契機に診断されたDLBCLの1例
沖繩県立中部病院 外科 横溝 玲奈
- 87 胆道走行異常のある症候性胆石症に対して順行式腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例
沖繩県立北部病院 東 智彦
- 88 上行結腸脂肪腫に対する腹腔鏡補助下手術の工夫
浦添総合病院 新垣 淳也

感染症

- 89 沖繩県における新型コロナウイルス(COVID-19)感染症患者の胸部CT検査に関するアンケート調査
琉球大学病院 放射線科 土屋 奈々絵
- 90 侵襲性 *Klebsiella pneumoniae* 感染症の1例
沖繩赤十字病院 下地 拓朗
- 91 COVID-19肺炎治療中に起きた腹直筋血腫、腸腰筋血腫の1例
那覇市立病院 初期臨床研修医 屋宜 尚太郎
- 92 サイトメガロウイルス感染症が発症に関与したと考えられた成人スティル病の1例
北部地区医師会病院 初期研修医 谷口 明日香
- 93 感染性心内膜炎の外科的治療介入の時期に苦慮した1例
中部徳洲会病院 上山 聡仁

一般外科

- 94 初回手術後10年で膵転移をきたしたHamangiopericytomaの1例
中頭病院 外科 野村 芽生
- 95 乳房部分切除術後の変形に対し遊離大網弁を用いた修正手術の1例
中頭病院 乳腺外科 幸喜 絢子
- 96 乳癌縦隔内再発の腫瘍塞栓による上大静脈症候群に対し放射線治療と化学ホルモン療法を行い長期生存が得られた1例
浦添総合病院 乳腺センター 藏下 要
- 97 当院における漏斗胸手術 一胸肋挙上術一
中部徳洲会病院 外科 河本 宏昭
- 98 先天性心疾患を合併した先天性十二指腸閉鎖症の1例
沖繩県立南部医療センター・こども医療センター 原 将輝
- 99 内視鏡的整復術に成功した小児における横行結腸捻転の1例
沖繩県立中部病院 外科 渡邊 雄太

救急

- 100 マグネット誤飲により小腸穿孔をきたした1例
沖繩県立中部病院 外科 西田 大希
- 101 左胃大網動脈仮性動脈瘤に対して動脈塞栓術(TAE)を施行した1例
南部徳洲会病院 外科 澤村 栄鳳
- 102 上腸間膜症候群との鑑別を要した異食症による十二指腸閉塞の1例
沖繩県立北部病院 外科 古澤 慎也
- 103 当院にへり搬送された脳卒中急性期患者の治療方針決定までの時間と院内連携について
中部徳洲会病院 救急集中治療部 友利 隆一郎

腎・泌尿器

- 104 BRCA 遺伝子変異陽性の転移性去勢抵抗性前立腺癌の1例
中部徳洲会病院 泌尿器科 與那嶺 智子
- 105 当院の慢性腎臓病(CKD)医療連携について
~那覇市CKD病診連携事業(CKD78)開始から5年が経過して~
那覇市立病院 腎臓リウマチ科 上原 圭太
- 106 当院で経験した陰茎癌15例の検討
中部徳洲会病院 泌尿器科 横井 那哉
- 107 巨大副腎骨髄脂肪腫の1例
南部徳洲会病院 名子 明里
- 108 全身浮腫のために低栄養の察知が難しかった、成人Still病のflareにより急性の経過で死亡した1剖検例
浦添総合病院 初期研修医 岩田 航右